

鹿児島県の海と魚に関する意識調査

櫻井 真¹・本村浩之²・青木五百子¹

¹ 〒 890-8525 鹿児島市唐湊 4-22-1 鹿児島純心女子短期大学

² 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

■ はじめに

鹿児島県海域の生物多様性や地理的特異性については、最近興味関心が向けられる機会が多くなった。例えば鹿児島大学総合研究博物館においても、2007年に特別展「鹿児島湾の自然史」が実施されている。このような特別展などへの来場者は、元々自然環境に関心が強い市民が多く、無関心層への啓蒙活動が重要であることが指摘されている(櫻井・本村, 2008)。そこで本研究では鹿児島純心女子短期大学の学生を市民の代表として、鹿児島湾に対する意識を問うアンケート調査を実施した。その際に身近な海洋生物の一つとして魚類を取り上げ、野生生物と食材の二つの側面から質問した。

■ 調査方法

平成20年度の鹿児島純心女子短期大学在学生のうち、1年生(41名)と2年生(67名)の計108名を対象とした。印刷物に質問事項を記載して回答を依頼することで、アンケート調査を実施した。

Sakurai, M., H. Motomura and I. Aoki. 2009. Results of resident attitude surveys on the sea and fishes of Kagoshima. *Nature of Kagoshima* 35: 43-46.

✉ MS and IA: Kagoshima Immaculate Heart College, 4-22-1 Toso, Kagoshima 890-8525, Japan (e-mail: MS, sakurai@juntan.k-junshin.ac.jp; IA, ihoko@juntan.k-junshin.ac.jp); HM: The Kagoshima University Museum, 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp)

■ 結果

調査対象の学生には鹿児島県本土沿岸の海域、鹿児島湾、琉球列島周辺海域などの区別が困難であることが事前調査で分かったため、一部を除いてこれらを区別せずに質問を作成した。

1. 鹿児島湾について

(1) 鹿児島湾について

①鹿児島湾について感心を持っていますか。

関心を持っていると回答した学生は46.3%であった。興味ない、どちらでもないの回答者を併せると半数以上であった(図1)。

②関心を持っていると答えた方に質問します。何に関心がありますか(複数回答可)。

海水浴、釣り、サーフィン、ダイビング、魚、イルカ、サツマハオリムシ、サンゴ、水質汚染、海のゴミ、その他をアンケート用紙に提示して回答を求めた。回答はイルカが最も多く、続いて海水浴、釣り、ダイビングなど海洋レジャーが中心であったが、サンゴの件数も多かった。海のゴミや水質汚染など環境問題への回答も見られた(図2)。

(2) 鹿児島湾について。どんなイメージですか(複数回答可)。

明るい、きれい、青い、暗い、汚い、ゴミが多い、その他を提示して回答を求めた。これらの選択肢は明るい、きれい、青いといったポジティブイメージと、暗い、汚い、ゴミが多いというネガティブイメージの語句に区分された。ポジティブイメージ語句への回答は合わせても約3割に過ぎず、ネガティブイメージ語句への回答が多くを

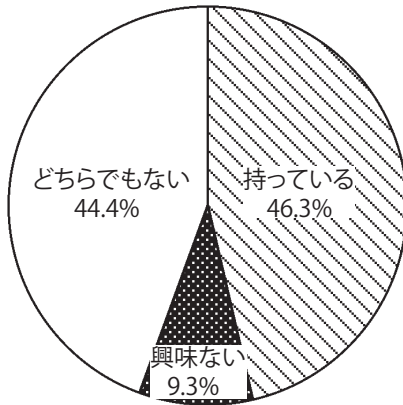


図1. 鹿児島県の海に興味を持っていますか。

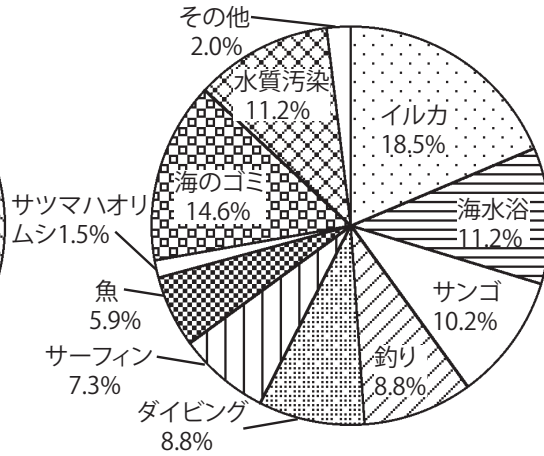


図2. 何に興味がありますか。

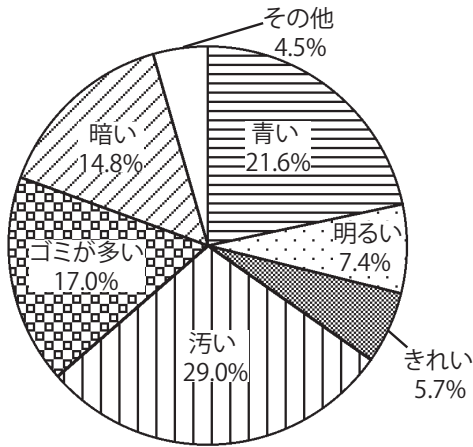


図3. 鹿児島湾はどんなイメージですか。

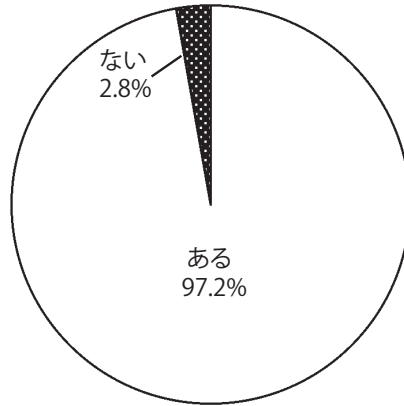


図4. かがしま水族館に行ったことがありますか。

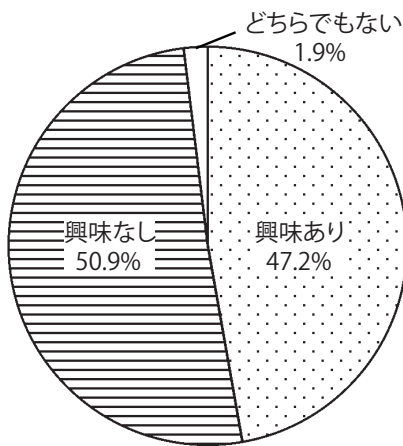


図5. 鹿児島県の魚に興味がありますか。

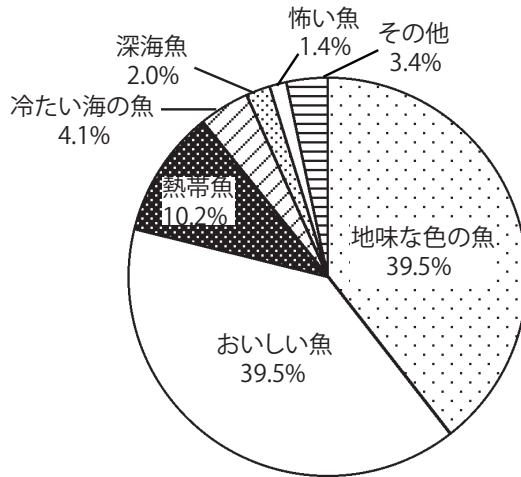


図6. どんな魚がすんでいるイメージがありますか。

占めた (図3)。

(3) かがしま水族館に行ったことがありますか。

行ったことがあると答えた回答者が大半であった (図4)。鹿児島純心女子短期大学の在生者は鹿児島県出身者が中心であるが、学校行事や家族のレジャーなどで訪れていると推測された。

2. 鹿児島島の魚について

(1) 鹿児島島の魚に興味がありますか。

興味があると回答した者は約半数で、ほぼ半数が興味なしと回答した (図5)。

(2) どんな魚がすんでいるイメージがありますか (複数回答可)。

熱帯魚、地味な色の魚、冷たい海の魚、深海魚、サバやカツオのようなおいしさかな、サメなどこわい魚、その他を提示して回答を求めた。事前の調査により、学生はサンゴ礁などの熱帯や亜熱帯海域に生息する魚類を熱帯魚として表現することがわかった。そこで、これら海域に生息する海産魚を熱帯魚として表現した。

魚のイメージは地味な色の魚、サバやカツオなどおいしい魚の二つの回答で約80%を占め、熱帯魚が約10%であった (図6)。

(3) 鹿児島島の魚といえば何を思い浮かべますか。

複数回答可の自由記述式とした。食材と特定せずに鹿児島を代表する魚の記述を求めた。

表1. 鹿児島島の魚といえば何を思い浮かべますか。

順位	人数	順位	人数
1. キビナゴ	46	7. イルカ	4
2. カツオ	44	8. ウナギ, サバ	3
3. マグロ	9	9. キス, サンマ, タイ, ジンベイサメ	2
4. カンパチ, ブリ	7	10. カジキマグロ, イワシ, クラゲ, チリメン, 熱帯魚	1
5. トビウオ	6		
6. アジ	5		

表2. 食材となる鹿児島島の魚といえば何を思い浮かべますか。

魚種	人数	魚種	人数
1. キビナゴ	46	8. ウナギ, サンマ	5
2. カツオ	43	9. タイ	4
3. マグロ	11	10. トビウオ	3
4. ブリ	10	11. サケ, カジキマグロ, イワシ, ヒラメ	2
5. カンパチ	9		
6. アジ	8	12. ウルメ, チリメン, キス, アラカブ, アンコウ	1
7. サバ	7		

キビナゴ, カツオ, マグロ, カンパチ, ブリなどの食用魚類が中心であった。食用以外の魚類では、かがしま水族館で飼育されているジンベイサメが挙げられた。この他に魚類以外のイルカ, クラゲも回答された (表1)。

(4) 食材となる鹿児島島の魚といえば何を思い浮かべますか。

複数回答可の自由記述式とした。食材と特定して鹿児島を代表する魚の記述を求めた。

前の質問とほとんど同じ回答内容でキビナゴ, カツオなどを挙げる学生が多数だった。この他にブリ, カンパチ, アジ, サバ, ウナギ, タイ, トビウオなど鹿児島産の種類が挙げられた。しかし、サケやサンマなど店頭で見かける魚種をそのまま挙げたと推測される回答も見られた (表2)。

(5) 好きな魚は何ですか (食べるとき)。

特に制限せずに自由記述式とした。

サケが最多でサバ, マグロ, ブリ, アジ, カンパチと続いた。鹿児島を代表する魚種として回答が圧倒的に多かったカツオは6名, キビナゴは2名に過ぎなかった (表3)。

■ 考察

鹿児島島の海に関心を持っている学生は約半数であった。この割合の評価は比較資料がないためにできないが、諸活動を計画する上で考慮する必要がある。具体的な関心事項ではイルカやサンゴの回答数が多かった。特にイルカはカワイイ生物として学生の人気は高い。鹿児島湾の魅力を訴求する生物として重要であるが、イルカ以外の情報を客観的に伝えることも大切であろう。鹿児島湾に対するイメージは汚い、ゴミが多い、暗いなどネガティブなものが多数を占めた。具体的関心事

表3. 好きな魚は何ですか (食べるとき)。

魚種	人数	魚種	人数
1. サケ	34	8. カツオ, タイ	6
2. サバ	27	9. エビ	5
3. マグロ	24	10. ヒラメ, ホッケ	4
4. ブリ	17	11. ウナギ	3
5. アジ	14	12. キビナゴ, シシャモ	2
6. カンパチ	12	13. アナゴ, ニジマス, イワシ, ハラカワ, タラ, クロダイ, キンメ, カレイ, キス, イカ	1
7. サンマ	10		

項でも海のゴミや水質汚染の回答例は多かった。これは環境保護に関する意識の啓蒙が進んで関心が高まった為か、あるいは鹿児島湾のネガティブなイメージが先行しているのか分からなかった。その中で、多くが訪れるかごしま水族館の働きは重要であると考えられた。

鹿児島の海域は熱帯、亜熱帯、温帯、深海性の多彩な様相を示すが、鹿児島の魚類に対して半数近い学生が興味を持っていた。しかし、すんでいる魚のイメージ、鹿児島の代表的な魚、食材として代表的な鹿児島の魚の質問ではおいしい魚、すなわちキビナゴ、カツオ、マグロなど食用魚の回答が中心であった。多様性豊かな海洋生物としてよりも、食材としての認識が中心であった。また、鹿児島の魚としてキビナゴ、カツオを挙げる例が多かったにも関わらず、食用として好きな魚はサケやサバなどが中心であった。キビナゴやカツオが鹿児島の代表的な食材として、必ずしも定着していない可能性が示唆された。

本研究を通じ環境教育が進んでいると推測された学生であっても、鹿児島の海など自然環境への認識は十分ではないと考えられ、いくつかの課題が示唆された。無関心者に対して分かりやすく興味をかき立てる活動、さらに野生生物、無機的環境、人間活動との関わりなどについて科学的理解を広める活動も必要だと考えられた。例えば、魚類や甲殻類、その他海岸の身近な生物などを材料に、海洋生物および食材としての特徴を伝えるような地道な活動が重要であろう。

■ 謝辞

本研究を実施するにあたり、アンケート調査にご協力いただいた鹿児島純心女子短期大学の学生の皆さんに深謝します。

■ 引用文献

櫻井 真・本村浩之. 2008, 鹿児島湾の自然の魅力を伝えるためには. *Nature of Kagoshima*, 34: 17-19.